宜野湾市長選挙の結果について

── 新基地建設を断念させ、普天間基地の無条件撤去へ全力を ──

12 年 2 月 13 日　日本平和委員会

昨日投開票された沖縄県宜野湾市長選挙で、「世界一危険な基地」米軍普天間基地の閉鎖・撤去、県内移設反対の立場を明確に掲げる伊波洋一氏が、21712 票（得票率 49%）を獲得したものの、自公が推薦する佐喜真淳氏に 900 票差の僅差で敗れました。

私たちは、急遽行われた短期間の準備での選挙戦で、堂々とその政策を市民に訴え大健闘した伊波洋一氏に、心からの敬意と感謝を表するものです。また、伊波氏の当選のために全力をあげてたたかった市民、県民、全国の皆さんに心から敬意を表します。

伊波氏が 2003 年に最初に市長に就任して以来、一貫して普天間基地の閉鎖・撤去、県内移設反対の要求を実現するために行動してきた努力は、この要求を立場を超えた「オール沖縄」の声とする重要な力になってきました。そしてその変化は、かつて県内移設容認派だった佐喜真氏をして、今回の市長選挙で「普天間基地の固定化反対」「県外移設」と言わざるを得ない状況を生み出しました。その主張には重大な問題と限界がありますが、伊波氏と市民・県民のたたかいが、佐喜真氏をして県内移設容認とは言えない状況においこんだことは重要です。それは必ず、今後のたたかいに生きるものです。

今回の市長選挙で、沖縄防衛局長は、憲法違反の選挙介入を行いました。しかし政府は、いまだに沖縄防衛局長に対し厳正な処分を行っていません。今回の問題をはじめ、過去の米軍基地がらみの選挙・住民投票への政府・防衛省・沖縄防衛局の介入の実態を徹底的に明らかにし、責任者を処罰し、二度と繰り返されないようにすることを求めるものです。

伊波氏の勝利のために、私たち平和委員会も、沖縄統一連、安保破棄実行委員会の諸団体と共同し、県内、全国の仲間が現地での選挙支援や募金、激励など、様々な形で奮闘しました。支援していただいた全国の仲間に、心からの感謝を表明するものです。しかし、その伊波氏の正義の主張と実績を市民の中に広げ抜き、さまざまな攻撃をはねのけて勝利するという点では、そこに至らなかったことは、本当に残念です。

日米政府は、宜野湾市長選挙のさなか、事実上、辺野古への新基地建設か、普天間基地の固定化かを迫る、米軍再編についての見直し合意を発表してきました。このなかで、新基地建設も普天間基地の固定化も許さず、普天間基地の無条件撤去を実現するたたかいは、いよいよ正念場を迎えます。私たちは当面、新基地建設のための環境影響評価書への知事意見提出（2 月 20 日、3 月 27 日）に対し、新基地建設断念を求める県民の総意にたった明確な態度表明を求めていきます。そして、4・28 サンフランシスコ講和条約発効 60 年、5・15 沖縄の施政権返還 40 年、6 月 10 日の沖縄県議会議員選挙を大きな節目として、沖縄と全国が一つになって、沖縄たたかいの勝利のための活動を全国でくりひろげる決意を表明するものです。

今年を沖縄のたたかいの勝利の年に！　ともにがんばりましょう！